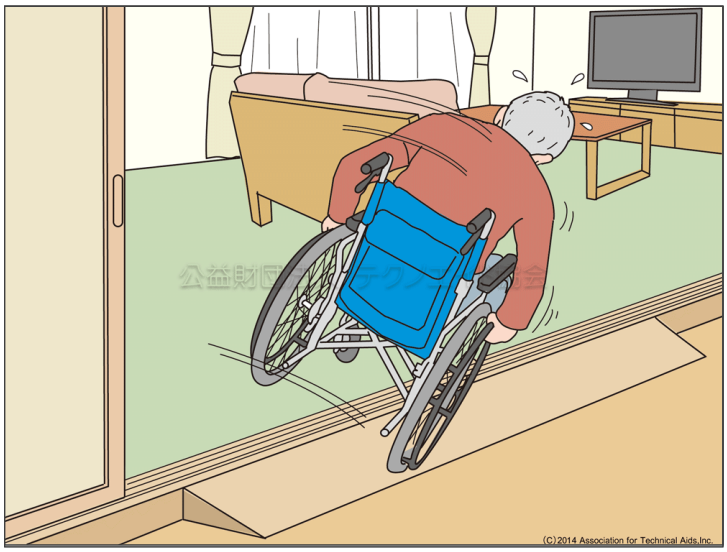
福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：306

バックで段差スロープに対して斜めに段差を下ろうとした際に、バランスを崩し転倒しそうになる

場面の説明

自室からトイレへ行こうと車いすをバックさせた際に、トイレへ向かう方向転換を急ぎスロープ上を斜めに走行する形となってしまった。転倒防止装置は取り付けてはいなかった



利用シーン	移動
主な利用場所	段差・縁石
介護保険の種目	スロープ
分類コード (CCTA95)	183018 (固定用スロープ)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

車いすはバックで移動しているときに急減速すると、後方に転倒しやすいという特性があります。この事例では、スロープ上ですので大車輪が下りたところで重心が後方に偏り転倒しやすい状態であったこと、斜め方向への移動で挙動を乱し、本人の身体が倒れ重心が側方へも偏ってしまったことなどが考えられます。このような車いすの特性と移動する環境を考え、転倒防止装置を装着する、段差スロープではない方法で段差を解消することなどを検討しましょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：こんな簡単に転倒してしまうとは思ってもみなかった
モノ：転倒防止装置が付いていなかった
環境：まっすぐに降りてから方向転換するには廊下が狭かった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.